

大手前大学 教職課程 自己点検・評価チェック項目

自己点検・評価基準： 「○」基準を満たしている。 「△」基準を満たしているが、改善を要する事項が認められる。 「×」基準を満たしていない。改善を要する。

基準領域	基準項目	観 点	確認項目	担当者(敬称略)	評価	改善事項概要および特記事項	エビデンス
基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標を共有	①教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教員像とともに学生に周知しているか。	教職課程教育の目的・目標を学生に周知できているか。	岸本	○	「教職課程に関する情報公開」ページを本学WEBサイトに開設し、その項目の一つに「教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること」を示し、周知を図っている。	・資料1-1-①：大手前大学ウェブサイト 教職課程に関する情報公開 (1.教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること) <a href="https://www.otemae.ac.jp/about/info/teacher-education/">https://www.otemae.ac.jp/about/info/teacher-education/</a>
		②育成を目指す教員像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施しているか。	教員養成の目的、養成したい教員像が明確に設定されているか。	尾崎	○	全学委員会のひとつとして教職課程委員会をおき、育成を目指す教員像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。	・資料1-1-②：教職課程委員会規程 ・資料1-1-③：2024年度 教職課程委員会活動報告書 2025年度 教職課程委員会活動計画書
		③教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っているか。	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、その達成状況が適切に示されているか。	尾崎	○	2024年度から新しいDPが実施されたことを踏まえ、教職課程を含めた各科目のディプロマポイントを示すカリキュラムマップが25年度から示されている。	・資料1-1-④：『履修ガイド（Student Handbook）』（2025年度版）p.191～205学則 ・資料1-1-⑤：『履修ガイド（Student Handbook）』（2024年度版）P.151～169教職課程 ・資料1-1-⑥：Grade Point Average 証明書（サンプル）
	基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫	①教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築しているか。	教職課程認定基準に基づく教員を適切に配置しているか。	芳田	○	教職課程認定基準に基づき、教職課程担当教員を適宜配置している。各科目の専門を指導するに適する講師を当て、それぞれ良さを引き出すようにしている。また、教務課に教職課程担当職員を配置し、教員と日々の情報共有を心掛けている。	・資料1-2-①：再課程認定 新旧対照表
		②教職課程の運営に関して教職課程委員会と学部の教職課程担当者として適切な役割分担を図っているか。	教職課程委員会と事務職員との適切な役割分担を図っているか。	尾崎	○	委員会にて決定した役割分担のもと運用できている。	・資料1-2-②：2025年度 教職課程委員会活動計画書
		③教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT教育環境の適切な利用に関しても可能となっているか。	教職課程教育を行う上での施設・設備が適切に整備されているか。	岸本	○	全学生がPCを必携しており、各教室にはICT教育可能な環境を整えている。各教科教育法のシラバスには「ICTを含む教具の活用方法を理解し、学習者要因を考慮した指導の工夫について学ぶ」など、学生に示している。また、「教職支援センター」をメディアライブラリーCELL内に設け、教職をめざす学生に開放し、自習や指導案の作成等として利用を促している。	・資料1-2-③：各教科教育法シラバス ・資料1-2-④：教室機器リスト
④教職課程の質的向上のために、授業アンケートの活用を始め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）やSD（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みを展開しているか。		教職課程の質的向上のためにFDやSDの取り組みを展開しているか。	岸本	○	教職課程の科目を含め、全科目において「授業アンケート」において、学生からのアウトプットを求め、その内容を確認し、次年度以降の授業改善に役立てている。また、教職担当職員は、年に数回「阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会」「京私教協教員免許事務勉強会」などの研修会に参加し、教職課程の質的向上に寄与している。	・資料1-2-⑤：授業アンケート結果の提示 ・資料1-2-⑥：阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会研修資料 ・資料1-2-⑦：京私教協教員免許事務勉強会資料	
⑤教職課程に関する情報公表を行っているか。		大学の教職課程に関する情報公開が適切に行われているか。	岸本	○	「教職課程に関する情報公開」ページを本学WEBサイトに開設し、教員養成の目標、担当教員、授業科目、免許取得、就職、教育の質向上など6項目にわたり公表している。	・資料1-2-⑧：大手前大学ウェブサイト 教職課程に関する情報公開 <a href="https://www.otemae.ac.jp/about/info/teacher-education/">https://www.otemae.ac.jp/about/info/teacher-education/</a>	
⑥教職課程委員会と学部（学科）教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、この自己点検評価を通じて機能しつつあるか。	教職課程の在り方を組織的に自己点検・評価しているか。	尾崎	○	本学独自の自己点検評価項目に応じて教職課程を見直している。	・資料1-2-⑨：大手前大学ウェブサイト 2024年度 大手前大学 教職課程 自己点検・評価チェック項目 <a href="https://www.otemae.ac.jp/wp-content/themes/otemae/assets/pdf/about/info/teacher-education/2024_teacher-training_report.pdf">https://www.otemae.ac.jp/wp-content/themes/otemae/assets/pdf/about/info/teacher-education/2024_teacher-training_report.pdf</a>		
基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保	①当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受け入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施しているか。	教職を担うにふさわしい学生の募集・ガイダンス・選考等を実施しているか。	尾崎	○	本学のDPの提示および教職ガイダンスにて、特に教育実習に臨む心構えを説明している。	・資料2-1-①：大手前大学ウェブサイト 教学運営の基本方針 <a href="https://www.otemae.ac.jp/faculty/policy/">https://www.otemae.ac.jp/faculty/policy/</a> ・資料2-1-②：『履修ガイド（Student Handbook）』（2025年度版）P.167～169 教職課程の履修モデルおよび履修スケジュール
		②「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定しているか。	教職を担うにふさわしい学生を受け入れる履修上の基準を設定しているか。	尾崎	○	科目の先修条件やGPA基準を設けている。	・資料2-1-③：『履修ガイド（Student Handbook）』（2025年度版）P.151～169 教職課程
		③「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れているか。	当該教職課程に即した適切な数の履修学生を受け入れているか。	尾崎	○	現状としては、大きな問題は起こっていない。	・資料2-1-④：卒業者数累計データ 証書発行件数表 ・資料2-1-⑤：教職課程4年生 教員採用・進路状況表
		④「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われているか。	履修カルテを活用し、学生に応じた教職指導を行っているか。	古田	○	3年生までは自己評価と履修計画のために「履修カルテ」に入力し続け、4年次「教職実践演習」にて4年間の学びの振り返りを行っている。この「履修カルテ」の入力後、別途アンケートで相談事項を申請するようにしており、その情報に基づいて教職課程の履修指導を実施している。また、3年生の秋学期に個別面談を行い、教職に関する進路相談や教育実習に向けての課題などを確認している。	・資料2-1-⑥：履修カルテ（サンプル） ・資料2-1-⑦：教職課程者向けFormsアンケート結果

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	基準項目2-2	①学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握しているか。	学生の教職に対する意欲や適性を把握しているか。	芳田	○	教育実習前の3年次生を対象として、事前面談を実施し、教育実習に関する不安の払拭を図っている。	・資料2-2-①：教育実習事前ガイダンス資料
	教職へのキャリア支援	②学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的にしているか。	学生のニーズに基づいた適切なキャリア支援を行っているか。	岸本	○	教採合格に向けた対策講座を学内の「資格サポートセンター」と連携して実施。受講にあたっては、テキスト代のみとし、学年問わず、受講生を募っている。最近、増加している教育委員会や私立中・高からの求人案内についてはTeamsを使って、タイムリーに情報発信している。また、「教職課程委員会」の構成員に担当教員と担当部署職員に加え、キャリアサポートセンター室長をおき、キャリア支援について組織的な支援を行っている。	・資料2-2-②：教採対策講座の実施案内 ・資料2-2-③「高槻市教育委員会」Teams案内キャプチャー ・資料2-2-④：大手前大学ウェブサイト 教職課程に関する情報公開 (2.教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること) <a href="https://www.otemae.ac.jp/about/info/teacher-education/">https://www.otemae.ac.jp/about/info/teacher-education/</a>
		③教職に就くための各種情報を適切に提供しているか。また、教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしているか。	教職に関する求人やボランティアに関する情報を適切に提供しているか。	芳田	○	求人やボランティア情報は全て教職課程のTeamsにて掲載している。	・資料2-2-⑤：教育ボランティア案内資料 ・資料2-2-⑥：教育実習事前ガイダンス資料
		④キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や多様な人材等との連携を図っているか。	教職に就いている卒業生と在学生、その他多様な人材等との連携を図っているか。	古田	○	「教職実践演習(中高)」において現職私中高教員をゲストティーチャーとして迎えて教育実践の紹介をお願いし、キャリアアップランニングのイメージ化にもつなげている。	・資料2-2-⑦：教職実践演習シラバス
基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	基準項目3-1	①教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っているか。	本学のクロスオーバー制に基づき、教職課程科目に限らず、特色ある教員養成を行っているか。	尾崎	○	学部横断した履修が可能である。	・資料3-1-①：大手前大学ウェブサイト 教学運営の基本方針 <a href="https://www.otemae.ac.jp/faculty/policy/">https://www.otemae.ac.jp/faculty/policy/</a>
	教職課程カリキュラムの編成・実施	②学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成しているか。	「教科専門」「教科指導」「教職専門」の各科目・領域間の系統性の確保を図っているか。	芳田	○	レベルナンバーや履修年次も踏まえて履修している。	・資料3-1-②：大手前大学ウェブサイト 「教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること」 <a href="https://www.otemae.ac.jp/files/about/disclosure01.pdf">https://www.otemae.ac.jp/files/about/disclosure01.pdf</a>
		③今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われているか。	ICT機器の活用方法を各教科教育法の授業で取り上げているか。	古田	○	各教科指導法および「教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)」での模擬授業ではICT機器を活用した学習計画を立てている。	・資料3-1-③：各教科教育法シラバス
		④アクティブ・ラーニング(「主体的・対話的で深い学び」)やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成しているか。	学生自身のアクティブ・ラーニングを促す学習活動を計画しているか。	古田	○	特に3年生は教科教育法での学びを踏まえて、後期から自主的に模擬授業の練習機会を設け、学び合いながら関わりを深め合う機会を主体的に作っている。	・資料3-1-④：各教科教育法シラバス ・資料3-1-⑤：タイプ1-④シラバス_アクティブラーニング調べ
		⑤教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示しているか。	シラバスにて学修内容や評価方法を示しているか。	芳田	○	シラバスにて記載できている。	・資料3-1-⑥：教職課程各科目シラバス
		⑥教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っているか。	教育実習に臨む上での必要な履修要件を設定しているか。	古田	○	先修条件や必要GPAなどを設定している。	・資料3-1-⑦：『履修ガイド(Student Handbook)』(2023年度版)P123~141 教職課程
		⑦「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしているか。	「履修カルテ」を活用し、学修状況の蓄積を行っているか。	古田	○	教職実践演習にて4年間の学びの振り返りを行っている。	・資料3-1-⑧：教職実践演習シラバス ・資料3-1-⑨：履修カルテ(サンプル)
基準項目3-2	①取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定しているか。地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けているか。	教育の実際場面に学生が触れる機会を提供しているか。実習前後において、模擬授業や報告会などの機会を設定しているか。	芳田・古田	○	例年、教育実習を終えた学生全員が全体発表および口頭試問を行う会を実施している。	・資料3-2-①：教育実習報告会資料	
実践的指導力養成と地域との連携	②様々な体験活動(介護等体験、ボランティア、インターンシップ等)とその振り返りの機会を設けているか。	ボランティア、介護等体験等の経験を報告する機会を設けているか。	古田	○	学期初めのガイダンスにて、ボランティア活動経験者に発表してもらっている。また、教員から授業において、あるいは学生個々にボランティア経験を勧めたり、教務課よりTeamsを通して、ボランティア情報を提供している。	・資料3-2-②：教育ボランティア案内資料 ・資料3-2-③：教育実習事前ガイダンス資料	
	③大学と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っているか。	教育委員会等との組織的な連携協力体制を構築しているか。	芳田	○	各市町教育委員会より募集のあるボランティア活動の掲載や教育実習校決定のための連携を行っている。	・資料3-2-④：教育ボランティア案内資料	